

## 令和7年度 学校評価に係る報告書

学校番号	29	学校名	大分市立川添小学校
------	----	-----	-----------

学校経営の重点	年間経営目標	自己評価	学校関係者評価	具体的な改善方策
基礎的・基本的な学力を身につけ、楽しく学ぶ子どもの育成	・授業が楽しいと感じる児童の割合88(80)%以上 ・単元末評価テスト(国語・算数)において、正答率60%未満の児童 10%以内	○「授業が楽しい」と回答した児童が88.2%、「勉強がわかる」と回答した児童が93.4%と高い割合となり、「新大分スタンダード」の徹底の成果が見られた。 ○今後は、家庭と連携して、家庭学習の習慣化に向けた取組を強化する必要がある。 ○学習部会を定期的開催し、学力向上に向けた取組の検証、課題の検討を行ってきた成果が見られた。	○全体的に落ち着いて授業に臨んでいるが、発表の音が小さく少し元気不足ではないかと感じた。 ○子ども同士で、自分のやり方を交流しながら問題を解き進めている姿がよかった。 ○授業に臨む態度がよくない学年があった。最近では先生も厳しく指導することが難しくなっていると思うが、もう少し厳しく注意してもよいのではないかと感じた。	○おたすけ教室(補充学習)を活用し、一人一人の理解度に応じた支援を行う。 ○「家庭学習習慣化ウィーク」を活用し、家庭と協力をして、家庭学習の習慣化を図る。 ○学力向上会議や学習部会を活用し、学力向上を図る。 ○校内研修を充実させ、授業改善を通して学力向上を図る。
互いの思いや違いを認め合い、協力して支えあえる子どもの育成	・地域の方や友だちにあいさつができる児童 97(85)% ・学校が楽しいと思える児童 90(85)%	○「学校が楽しいと思える児童」が92.8%であり、多くの児童が前向きに学校生活を送っていることがうかがえる。3学期は2学期に比べて自己肯定感や人権意識の数値がやや低下していた。今後は、「絆タイム」や「おもいやりの木」等の取組を丁寧に継続し、すべての児童が自分や友だちを大切にできるよう指導の充実を図っていく必要がある。	○お互いのよいところを探して書いているのがよかった。 ○学級の掲示物から、子どもの様々な思いが伺われた。小学校は、子どもの根っこを育てるところで、中学校進学後の対応力を身に付けさせるところでもある。 ○高学年児童には積極的に挨拶をするお手本を低学年児童に見せてほしい。	○ホームページや学校だよりを通じて、学校の教育活動を積極的に発信する。 ○「絆タイム」や「おもいやりの木」等の取組を継続し、児童が自分や友だちを大切にすることを育てる指導の充実を図る。 ○「あいさつの花」を全校で取り組むとともに、地域の方や保護者の方からの評価をいただく。
基本的な生活習慣を身に付け、健やかな体づくりに努める子どもの育成	・運動が好きな児童 90(80)% ・早寝・早起きができる児童 84(80)%	○「運動が好き」と回答した児童が93.4%となり、3学期は2学期よりも向上した。ほめる声かけ等の取組の成果が表れている。一方で、「早寝・早起きを守っている」と回答した児童は79.6%であり、生活習慣の定着には課題が見られた。今後は、家庭と連携した基本的な生活習慣の改善の取組を進めていく必要がある。	○外で遊ぶ児童が少ない。家で何をして遊んでいるのか。 ○外で遊ばなくても、onとoffの切り替えができていればよいのではないかと。家では休憩など。	○休み時間の放送等を通して、全校で外遊びの取組を促す。 ○「三日坊主じゃないよ週間」の取組を継続し、早寝早起きができるよう、生活習慣の定着を図る。 ○毎月の体育目標を、体育部を中心に協議し、提案する。

本市重点施策	重点目標	自己評価	学校関係者評価	具体的な改善方策
小中一貫教育の推進	9年間を見通し、豊かな心を持つ生徒の育成を目指し、研修と取組を実施する。	○人材の効果的な活用や連携した研究を進めたことで、協働して小中一貫教育の推進が図れたと回答する教職員は100%となり、校種間の連携が深まった。 ○今後は、家庭との連携をさらに深めながら、児童が主体的に学習に取り組む習慣の定着を図っていく必要がある。	○中学校進学後に、小学校の生活との違いに戸惑いを感じている子どもたちがいることが気になる。 ○小学校は、日常生活に必要な基礎的能力を養うところで、中学校は、その基礎の上に心身の発達に応じた教育を行う。今後さらに中学校と連携した取組の必要性がある。	○9年間を見通した指導を念頭に置いた小中合同授業研究会、合同研修会を行う。 ○中学校からの乗り入れ授業を積極的に依頼し、「中一ギャップ」の解消に努める。 ○小中の校長・教頭・教務が連携し、3校の情報交換を頻繁に行う。
いじめ・不登校への未然防止及びその対応	・支持的風土のある学級づくり ・いじめの早期発見、早期解決に向けた迅速かつ組織的な取り組み	○不登校・不登校傾向にあるすべての児童について、SSWやSCを活用し、関係機関と連携した支援を行うことができた。今後も継続した支援体制を維持していくことが大切である。	○保護者の中でもいじめのとりえ方に差がある。 ○校内支援教育ルームを活用し、個に応じた支援の充実が図られている。	○不登校が疑われる場合は、担当者や管理職と早期に情報共有し、組織的に迅速な対応を行う。 ○いじめが疑われる事案については、教職員で情報共有し、組織的に対応する体制を徹底する。 ○いじめや不登校に関する情報を、ホームページやメール等で保護者に周知する。
働き方改革の推進	業務の効率化による働き方の改善	○すべての項目で目標達成でき、働き方の改善が図られた。今後も業務の見直しや効率化を進め、働きやすい職場環境づくりを継続していく必要がある。	○先生方の忙しさは理解している。 ○学校と保護者、地域が協力して児童を育てる必要がある。	○会議資料のペーパーレス化を進め、準備や印刷にかかる時間の削減を図る。 ○行事の精選や余剰時数の削減を進め、業務の負担軽減を図る。 ○定時退勤日を守り、ワークライフバランスの充実を図る。